

2024年5月24日

各 位

上場会社名 東亜建設工業株式会社
代 表 者 代表取締役社長 早川 毅
(コード番号 1885 東証プライム・札証)
問合せ先責任者 管理本部総務部長 中尾 昌義
(TEL：03-6757-3800)

取締役会の実効性評価結果の概要について

当社は、当社グループの持続的な成長と企業価値の向上、社会価値の継続的な創出のためには、コーポレートガバナンスの強化が重要であると認識しており、当社「コーポレートガバナンス・ガイドライン」において、取締役会の役割・責務として、経営全般に対する監督、経営の公正性・透明性の確保、経営陣の指名、評価及びその報酬の決定、重大なリスクの評価及び対応策の策定並びに重要な業務執行の決定等を規定し、その実効性を担保するために、各取締役への定期的なアンケート等を踏まえた分析・評価を行い、その結果の概要を開示することとしております。

このたび、2023年度に開催された取締役会について実効性の評価を実施し、その結果が取締役会において報告・審議されましたので、以下のとおり、評価結果の概要を公表いたします。

1. 実施内容

評価対象：2023年4月から2024年3月までに開催された取締役会（計16回）

評 価 者：全ての取締役（計12名、3月末時点在任）

（内、独立社外取締役4名、その内監査等委員である取締役3名）

評価方法：4段階評価及び自由記入によるアンケートの後、その集計結果を踏まえた意見交換を実施

評価項目：・取締役会の規模・構成

・取締役会の運営

・取締役会での議論（経営方針、経営人材育成、モニタリング等）

・指名報酬委員会の運営

・株主・投資家とのコミュニケーション

2. 分析・評価結果の概要

(1) 結 論

当社取締役会の運営状況、指名報酬委員会の運営等は、概ね適切であり、取締役会は有効に機能していると評価しました。また、株主・投資家とのコミュニケーションについては概ね肯定的な評価でした。一方で、取締役会の運営・議論の内容について、自由闊達な議論が行われているものの、更なる改善を検討していくべきとする意見もありました。

確認された主な課題は次のとおりです。

(2) 確認された主な課題

項目	今回評価に基づく課題
取締役会の役割・機能及び効率的な会議運営	<ul style="list-style-type: none"> • 議題数の増加への対応、重要度に応じた優先順位による議題の選別等による、議論の機会の確保及び議論の深化
取締役会の規模・構成 (スキルマトリックス)	<ul style="list-style-type: none"> • スキルについての議論の充実、取締役個々の知識及びスキルの強化 (スキル強化のための機会提供等) • 環境、働き方改革、DX、ジェンダー等の新たなスキルに関する継続的検討 • 将来の企業価値向上に向けた指名報酬委員会での議論、コミュニケーションの一層の充実
取締役会での議論 (経営方針、経営戦略)	<ul style="list-style-type: none"> • 継続的なPDCAサイクルの実行 (重要案件について機を逸することなく報告、問題提起) • 経営戦略・グループ戦略の議論、多様性 (女性、外国人等)、ステークホルダーとのエンゲージメントに係る議論の機会の充実 • 昨年の子会社不祥事の反省を踏まえた、実効性のあるグループガバナンスの強化

3. 前回の取締役会の実効性評価結果及び昨年度の対応

前回評価に基づく課題	改善の具体例
取締役会の規模・構成 (スキルマトリックス)	<ul style="list-style-type: none"> • 求められる各種スキル、将来に向けた人材育成及びサクセッションプランについて意見交換を実施した。 • 継続的な議論が必要である。
取締役会の運営 (効率的な会議運営)	<ul style="list-style-type: none"> • 事務局から各主管部門に対し、資料作成、説明時の注意点を予め周知することにより、取締役会運営の効率化を図った。
取締役会での議論 (経営方針、経営戦略)	<ul style="list-style-type: none"> • 取締役が積極的に現場の執行状況の把握を進め、適時取締役会にて報告を行うことにより、リスクの共有・分析を行うこととした。 • 子会社を含めたグループガバナンスの強化について、不正事象の再発防止を中心に、意見交換を実施した。

4. 今後の取り組み

今回の実効性評価の結果を受け、上記の課題解決のための施策を講じることで、取締役会の審議の充実、建設的な議論の実現等、更なる実効性の向上に努めてまいります。

以上